

特別支援学校

受験番号

授業の構想を練る時間：4 分間 説明の時間：1 分間 模擬授業の時間：5 分間

（１）本試験のねらい

知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校で実施する授業について、児童生徒の実態を考慮し、教科の段階を踏まえた授業内容となっているか、児童生徒の前で授業をする際の様子を評価します。

（２）問題の内容

以下の【授業内容】について、裏面【各段階における目標及び内容】を踏まえ、下記【授業設定】、【留意事項】に考慮し、児童生徒たちに授業を行いなさい。

【授業内容】

あなたは、特別支援学校における担任です。
本日、図画工作（美術）において『ねんどで作品作り』という単元名で授業を行います。
学習の目的を踏まえ、児童生徒の実態を考慮し、児童生徒たちへ指導しなさい。

【授業設定】

- ・特別支援学校における担任であり、主担当として模擬授業を進める。
- ・担当する学部、学年は自由に設定してよい。
- ・対象の児童生徒は知的障がい単一とする。
- ・児童生徒 5 人が目の前にいることを想定し、模擬授業を行う。

【留意事項】

- ・授業を進めるにあたり、下記の物品を使用してもよい。
 - ※黒板・ホワイトボード（固定式）× 1
 - ※ホワイトボード（手持ち）× 1
 - ※ホワイトボードマーカー（黒、赤、青、緑）
- ・授業の構想を練る時間に上記の物品を用いて授業の準備をしてよい。
なお、机、椅子については、現状のレイアウトのとおりとし、動かさないこと。

【各段階における目標及び内容】

小学部 図画工作 2段階

(1) 目 標

ア 形や色などの違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。

(2) 内 容

A 表 現

ア 身近な出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形をつくるなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること。

中学部 美術 1段階

(1) 目 標

ア 造形的な視点について気付き、材料や用具の扱い方に親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。

(2) 内 容

A 表 現

ア 日常生活の中で経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。

高等部 美術 1段階

(1) 目 標

ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。

(2) 内 容

A 表 現

ア 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、つくったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。

特別支援学校

受験番号

授業の構想を練る時間：4 分間 説明の時間：1 分間 模擬授業の時間：5 分間

（１）本試験のねらい

知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校で実施する授業について、児童生徒の実態を考慮し、教科の段階を踏まえた授業内容となっているか、児童生徒の前で授業をする際の様子を評価します。

（２）問題の内容

以下の【授業内容】について、裏面【各段階における目標及び内容】を踏まえ、下記【授業設定】，【留意事項】に考慮し、児童生徒たちに授業を行いなさい。

【授業内容】

あなたは、特別支援学校における担任です。
本日、算数（数学）において『比べてみよう（長さ・重さ・高さ・広さ）』という単元名で授業を行います。
学習の目的を踏まえ、児童生徒の実態を考慮し、児童生徒たちへ指導しなさい。

【授業設定】

- ・特別支援学校における担任であり、主担当として模擬授業を進める。
- ・担当する学部、学年は自由に設定してよい。
- ・対象の児童生徒は知的障がい単一とする。
- ・児童生徒 5 人が目の前にいることを想定し、模擬授業を行う。

【留意事項】

- ・授業を進めるにあたり、下記の物品を使用してもよい。
 - ※黒板・ホワイトボード（固定式）× 1
 - ※ホワイトボード（手持ち）× 1
 - ※ホワイトボードマーカー（黒，赤，青，緑）
 - ・授業の構想を練る時間に上記の物品を用いて授業の準備をしてよい。
- なお、机、椅子については、現状のレイアウトのとおりとし、動かさないこと。

【各段階における目標及び内容】

小学部 算数 2段階

(1) 目 標

C 測定

ア 身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、量の大きさの違いが分かるとともに、二つの量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。

(2) 内 容

C 測定

ア 身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、二つの量の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。

㉞ 長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。

㉟ 二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。

㊱ 長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。

中学部 数学 1段階

(1) 目 標

C 測定

ア 身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。

(2) 内 容

C 測定

ア 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。

㉞ 目盛の原点を対象の端に当てて測定すること。

㉟ 長さの単位[ミリメートル(mm)、センチメートル(cm)、メートル(m)、キロメートル(km)]や重さの単位[グラム(g)、キログラム(kg)]について知り、測定の意味を理解すること。

㊱ かさの単位[ミリリットル(mL)、デシリットル(dL)、リットル(L)]について知り、測定の意味を理解すること。

㊲ 長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。

高等部 数学 2段階

(1) 目 標

C 変化と関係

ア 比例や反比例の関係、比について理解するとともに、伴って変わる二つの数量を見いだし、それらの関係について表や式を用いて表現したり、目的に応じて比で処理したりする方法についての技能を身に付けるようにする。

(2) 内 容

C 変化と関係

ア 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を見に付けることができるよう指導する。

(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。

㉞ 比例の関係の意味や性質を理解すること。

㉟ 比例の関係をを用いた問題解決の方法について理解すること。

㊱ 反比例の関係について理解すること。

特別支援学校

受験番号

授業の構想を練る時間：4分間 説明の時間：1分間 模擬授業の時間：5分間

（1）本試験のねらい

知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校で実施する授業について、児童生徒の実態を考慮し、教科の段階を踏まえた授業内容となっているか、児童生徒の前で授業をする際の様子を評価します。

（2）問題の内容

以下の【授業内容】について、裏面【各段階における目標及び内容】を踏まえ、下記【授業設定】、【留意事項】に考慮し、児童生徒たちに授業を行いなさい。

【授業内容】

あなたは、特別支援学校における担任です。
本日、職業・家庭（生活）の内容と関連させて『調理（お手伝い）をしよう』という単元名で授業を行います。
学習の目的を踏まえ、児童生徒の実態を考慮し、児童生徒たちへ指導しなさい。

【授業設定】

- ・特別支援学校における担任であり、主担当として模擬授業を進める。
- ・担当する学部、学年は自由に設定してよい。
- ・対象の児童生徒は知的障がい単一とする。
- ・児童生徒5人が目の前にいることを想定し、模擬授業を行う。

【留意事項】

- ・授業を進めるにあたり、下記の物品を使用してもよい。
 - ※黒板・ホワイトボード（固定式）×1
 - ※ホワイトボード（手持ち）×1
 - ※ホワイトボードマーカー（黒、赤、青、緑）
- ・授業の構想を練る時間に上記の物品を用いて授業の準備をしてよい。
なお、机、椅子については、現状のレイアウトのとおりとし、動かさないこと。

【各段階における目標及び内容】

小学部 生活 3段階

(1) 目 標

ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

(2) 内 容

キ 手伝い・仕事

自分から調理や製作などの様々な手伝いをすることや学級の備品等の整理などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 日常生活の手伝いや仕事を進んでしようとする事。

(イ) 手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けること。

中学部 職業・家庭 1段階

(1) 目 標

家庭分野

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

ア 家庭の中の自分の役割に気付き、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

(2) 内 容

家庭分野

B 衣食住の生活

イ 調理の基礎

必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。

(イ) 簡単な調理計画について考えること。

高等部 家庭 1段階

(1) 目 標

ア 家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

(2) 内 容

B 衣食住の生活

イ 日常食の調理

日常食の調理に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について知り、基礎的な日常食の調理ができること。

(イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、表現すること。

特別支援学校

受験番号

授業の構想を練る時間：4 分間 説明の時間：1 分間 模擬授業の時間：5 分間

（１）本試験のねらい

知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校で実施する授業について、児童生徒の実態を考慮し、教科の段階を踏まえた授業内容となっているか、児童生徒の前で授業をする際の様子を評価します。

（２）問題の内容

以下の【授業内容】について、裏面【各段階における目標及び内容】を踏まえ、下記【授業設定】，【留意事項】に考慮し、児童生徒たちに授業を行いなさい。

【授業内容】

あなたは、特別支援学校における担任です。
本日、国語において『手紙を書こう』という単元名で授業を行います。
学習の目的を踏まえ、児童生徒の実態を考慮し、児童生徒たちへ指導しなさい。

【授業設定】

- ・特別支援学校における担任であり、主担当として模擬授業を進める。
- ・担当する学部、学年は自由に設定してよい。
- ・対象の児童生徒は知的障がい単一とする。
- ・児童生徒 5 人が目の前にいることを想定し、模擬授業を行う。

【留意事項】

- ・授業を進めるにあたり、下記の物品を使用してもよい。
 - ※黒板・ホワイトボード（固定式）× 1
 - ※ホワイトボード（手持ち）× 1
 - ※ホワイトボードマーカー（黒、赤、青、緑）
 - ・授業の構想を練る時間に上記の物品を用いて授業の準備をしてよい。
- なお、机、椅子については、現状のレイアウトのとおりとし、動かさないこと。

【各段階における目標及び内容】

小学部 国語 3段階

(1) 目 標

イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。

(2) 内 容

〔思考力、判断力、表現力等〕

B 書くこと

書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。

中学部 国語 2段階

(1) 目 標

イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。

(2) 内 容

〔思考力、判断力、表現力等〕

B 書くこと

書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。

高等部 国語 1段階

(1) 目 標

イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。

(2) 内 容

〔思考力、判断力、表現力等〕

B 書くこと

書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすること。